



僕が掘られて
世界が平和



人間界...



貴様が扉を開けたのか？





この男は一人さみしく
自室でオナニー
していただけである

しかしその自らを
慰めるために
上下していた手が



は…？
いや…

ぼ、僕には
なんのこともやら…



意図してだか
偶然だかは
どうでもいいが…

扉が開いたことは
我にとって幸運



同じく魔界にてセンスリを
こいていたこのふたなりの
魔人の動きとシンクロし

どういうわけか
魔界と人間界が通じる扉を
開いてしまったのだ…！

魔界は退屈な
ところであ

見渡す限りの
荒れた土地に
淀んだ空

生きるものは
全て犯し甲斐のない
腑抜けばかり

貴様のように
手淫に耽った方が
マシな環境だ

まあ我が
暴れまわった
結果だがな

その点、この世界は
英気に満ちている
ようだな

ここに居るだけでも
そこら中で躍動する
魂の鼓動が我が心臓に
伝わってくるぞ

は、はあ…
随分評価が
高いんですね…

実に暴れ
甲斐がある

え…？

破壊と殺戮
久々に我が本分を
発揮できる…

感謝
するぞ
男よ

これ…
もしかして

やばい？

まだコイツが
何をしたわけ
じゃないけど、
本能でわかる…

圧倒的上位の存在…
全てを超越した
異界の生き物…





さて…
まずは一撃…

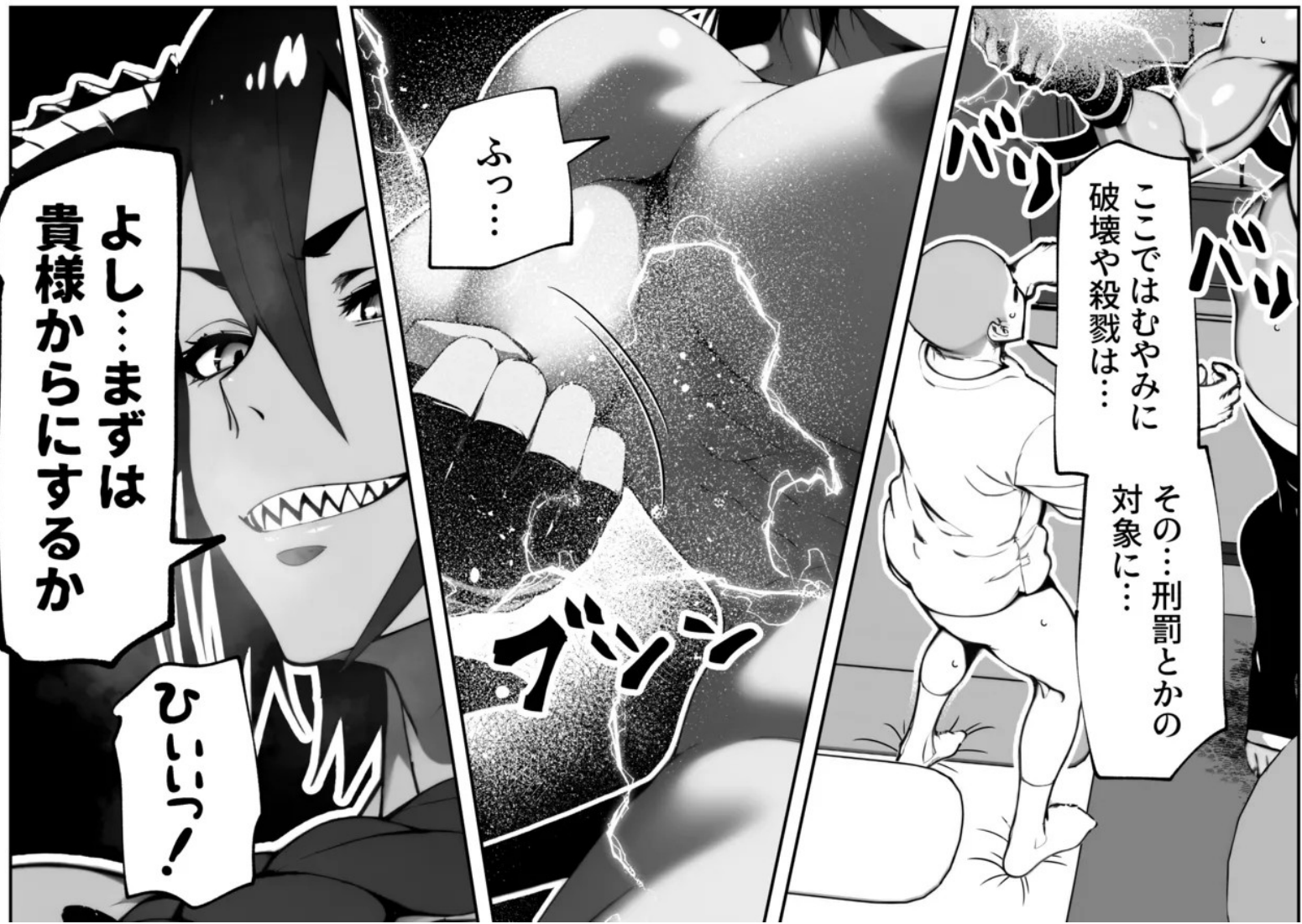
ま、待って…!!

やめましようよ、
こんなこと

スッ

フー

ほら、郷に入っては
郷に従えなんて
言葉もありますし…



ここではむやみに
破壊や殺戮は…
その…刑罰とかの
対象に…

ふっ…

グッ

よし…まずは
貴様からにするか

ひいっ!



ぼ、暴力
反対！

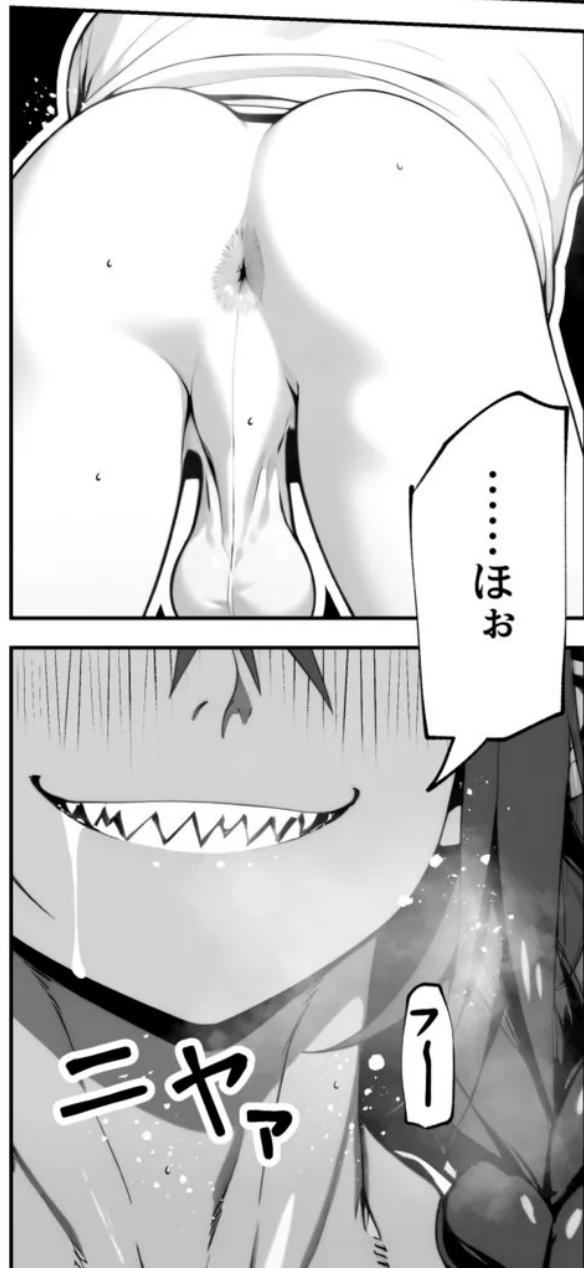
クク…
暴力とはまた
可愛らしい表現を…

バ
ア
ア



思えば手淫の
最中であつた

魔羅を
鎮めねばな



…ほお

ニヤァ



どれ、人間界の
肉穴を試させて
もらおう

いっ...!?

グ
フ...

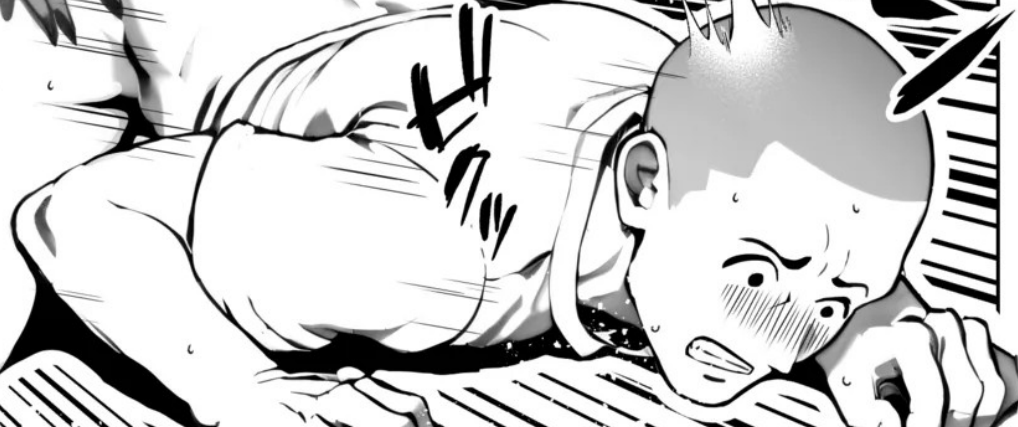
フー
!!

ムニズ

カ

フー

カ



ふむ…!



我が極大の
魔羅を安々と
啜え込み…

尚且つ
緩いわけでもなく
程度の良い締め…!

ゲキッ

ゲキッ

ゲキッ

ゲキッ

ゲキッ

フー

フー

フー

あ

ん

フー

フー

う

お

う

あ

魔界の雑魚穴
などとは
まるで違う…

この世界の
肉穴は皆こうか？

それとも
貴様が特別か？

ククツ…！
早くもこみ上げて
きおったわ…！

おおお！

おおお！！

おおお！！

おおお！！

おおお！！

お、





おおおおお!!

トク

トク

トク

ハ

ハ

…ふう…
いつ以来だ…?

久々に思い出したぞ、
激しく脈打つ
強烈な射精の感覚…

ハ

男よ、
素晴らしい穴だ

我から
これほどの種汁を
搾り取ったことを
誇りに思うがいい…

ピク

ハハハハハ

ピク

ハ

ピク

ハ

…あ…
…あ…

ピク



あの…
お名前は…

ああ名乗って
なかったか

…
ディギユレ

向こうでは魔人様
としか呼ばれて
なかった故な

危うく我が名を
忘れることろで
あった

ディギユレ…様…
あの…僕はこれから
仕事で家を
空けなきや
いけないんですが…

その間…大人しく
できますか…?

まるで幼子にでも
言い聞かしている
ようだな?

ひっ…

愉快的な
ことを言う…

そそそ
そんな
つもりは…

クク…
一々怯えるな

どれほど
外出するか
知らんが…

貴様の頼み
聞かんこともない

だが
これを見よ
玉が重くて
仕方ない

眠りから覚めたのなら
溜まり汁を排出せねば
一日は始まらない

貴様も粗末ながら
魔羅を持つ者：
理解できるだろう

わ、わからない…

あ、あの…
仕事に支障を
きたすので…

あまり
激しいコトは…

ふん…
ならば
どうする？

我を愛撫で
果てさせてみるか？

ズズズズ

ドキ

ドキ

ドキ



愛撫でここまで
昂らせるとは

穴だけの男では
ないようだな…

キュウウ

ハア

ら

ら

ら

ハア

ら

ハア

口を開けろ…
注いでやる…!

ら



さっさと
仕事とやらを
終えて帰ってこい

貴様がいない間、
ここに留まって
いてやる



ゴボッ

ゲホッ

ゴホッ

ふう〜…
よかろう…

ビチャチャ



そうだよ…だったら
世界が破滅しようが
どうでもいいんだ…

でも…やっぱり
怖いものは
怖い…



最悪だ…ただでさえ
クソみたいな人生なのに…



…いつてきます…



…家には
魔人がいる…

フン
ようやく
帰ったか



…珍しく定時で
帰れても…



スーッ



ほう
人の娯楽か…
何もせんよりは
良からう

あと…ご飯
買ってきました…

食べますよね…?

カサッ



ただ待つのも
退屈で
かなわんな

微動だにせず
玉に欲が漲る感覚を
楽しむしか無い

は…はあ…ずっと
その姿勢で…?

意外と
律儀だな…

その…良かったら
テレビとか
本とかいろいろ
あるんで…

そういうので
暇を潰して
もらって…

クカカツ!
我に食事が
必要と思うか?

内から精気が
無尽蔵に湧き
出てくるといふのに

そ、そう
でしたか…

失礼
しました…

むしろ吐き
出さねばならん

知らんよ…

だが

カッ

口にすることは
問題ない

貴様に注ぐ
精の量が
増すだけだ

こ、困る…

食らうという行為
実に久しいな…
なかなか悪くない

あ…良かった
です…

特にこの
牙を模した
緑の膜

食いづらくて
良いな

久しぶりでいえば
こうして誰かと
食事するのも
いつぶりだろうな…



さて…
貴様の見戯に
付き合うのも
ここまでとして…



相手が魔人さんでも
ちよつと嬉しいなんて
かなり病んでるな…

あ、バランは
食べ物
じゃないです…

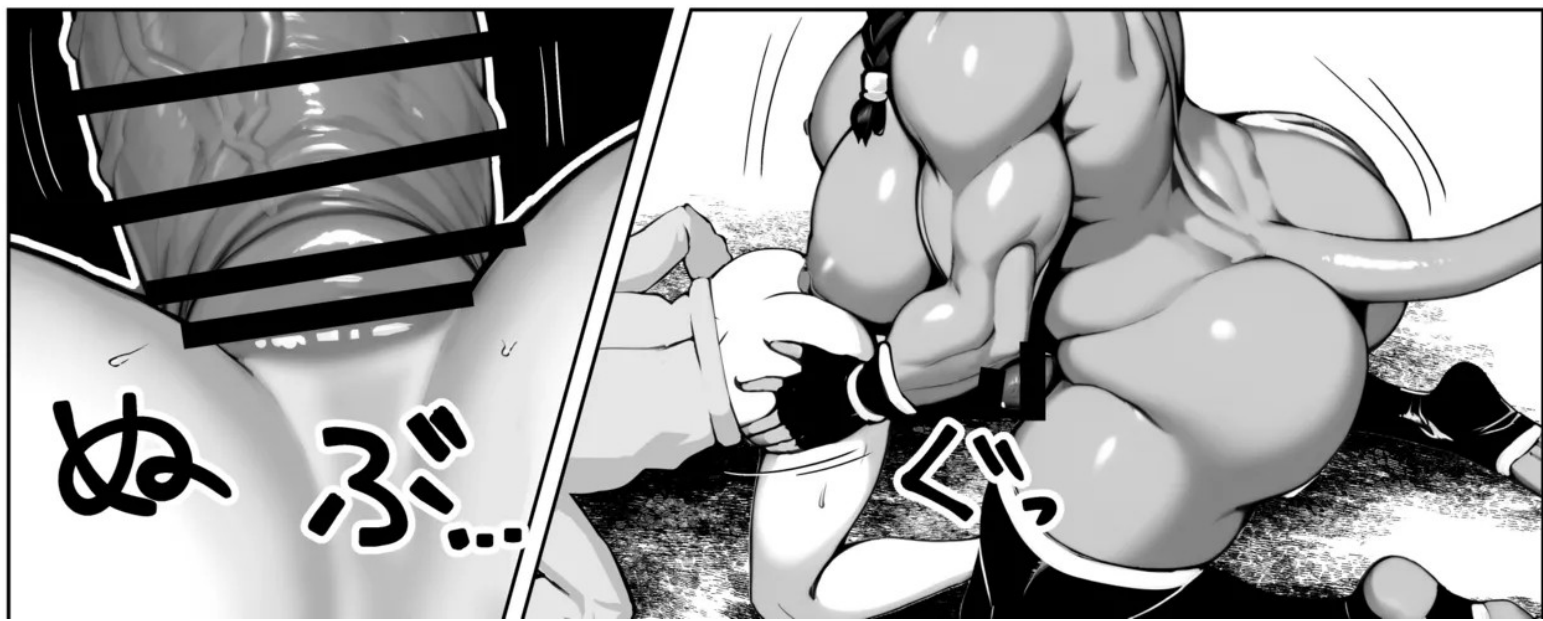


だいぶ待た
されたからな
玉が張って仕方ない

尻を出せ

はい…

やっぱり…



ぬ ぶ…

ぐ…

やはり良いな
貴様の穴はっ！

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

同じ穴を二度
使うことなど
いままで無かったが

はっ
はっ
はっ

我としたことが
心待ちにまで
するとは

はっ
はっ
はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

ククッ：
たまらんな

はっ



自分が今苦しいのか
気持ちいいのかも
わからないけど

魔人さんは僕の穴を
気に入ってるらしい…

頭が真っ白になる…
今日あった嫌なこと
全部飛ぶっ…

ほう…
貴様も随分興奮
しているようだな

熱り勃って
おるぞ？

体が狂うことを
望んでいるっ…

デイギユレ…
様あっ！



そうだ…貴様の
名を聞いて
なかつたな…!

ふ、フミスケ…
ですっ

フミスケえ…!!

腹一杯に注ぎ
込んでやるっ!



魔人ディギユレの影響で
フミスケの生活は
大きく変わったが……
……ように思えたが

結局のところ
職場と家の往復を
する毎日に
違いはなかった

人の世では
布で隠すのか

そんな中魔人が居る
日常にも徐々に慣れてきて

もっと
隠した
ほうが……

魔人もまた、特に問題を
起こすこともなく

ククク……

人間の文化も
受け入れ

フミスケの肉穴さえ
捧げておけば
意外とおとなしい
ものだった

シニール系の
コントが
好きなんだ……

行為中に騒音を
注意にきた
住民もいたが

何用だ

魔人を見た瞬間
逃げ出しそれ以降
誰も近寄らなくなった

フミスケ

仕事とやらは
どうしても
行かねば
ならんのか？

まあ……それは
生きていくために……

飽きましたか……？
テレビとか
ゲームとか……

そうではない

貴様が
毎度疲弊して
帰って来るのが
気に入らん

え…？

貴様は私の
玩具だからな

変に衰弱して
穴が緩む
など許せんのだ

……そうは
言っても…

ただでさえ貴様は
魂に活力を感じぬ

これほど栄えた世の中に
生きている者とは思えん

ディギユレ様は…
魔界でも頂点で
こっちでも当然そう…

きっと強者だから
そう思えるんであって…

そのくせ穴は
極上だがな

僕みたいに漠然と
生きている弱者
だってたくさん
いますよ…

ふん、
弱者か

我を呼び出した手淫は
犯して犯して
行き着いた先ではなく…

誰からも
相手にされず
仕方なく行って
いたわけだ

まさか
そんな手淫が
我が手振りと
同じ律動とはな

普通オナニーって
そういうものでは…

なんか…
すいません

だが

喜べ

圧倒的
強者である
我は

貴様を
気に入っている

フミスケよ

貴様の肉穴が
我が欲を満たしている
限りこの世界は平穩

つまり貴様が
人間界の
救世主なのだ

そこらの
腑抜けとは違う

…え…?
慰めてくれ
てるんですか…?

どうとでも
とるがいい…

それに…

我は知っているぞ
貴様のくすんだ魂を
輝かせる術をな…

デイギユレ様っ…

がしっ

クク…
いつからか

もはや
和姦だな

ク

ゴ

ハ

ハ

ハ

ハ

我が欲を
ぶつけている時

貴様の魂が
奮い昂るのを
確かに感じる

我に犯されるために
生きているのか？

貴様は…！

そ…
そうかも
しれません…



接吻をすると
穴がよく
締まる…

ハ？

ハ？

ハ

ハ？

あ♡

どんな姿勢で
犯ろうとも

愉しませて
くれるっ

ガ

ハ

ピキッ

びく

ピキッ

ピキッ

ハ？

ピキッ

ピキッ

ピキッ

ピキッ

ピキッ

ピキッ



玉の底から種汁が
昇ってきておるわ

濃厚で

煮えたぎった

夥しい量の
粘り汁

生命の理を超越して
孕むやもしれんな

こんなものを
注ぎ込んだら

そろそろ
吐き
出してやる

え…!?
まさか…

ククク…
馬鹿が…♡

はい

はい

はい

はい

はい

はい





フミスケツ!

フミスケツ!

フミスケツ!

デイ...ギユ...

レッ様...

はーい

はーい

はーい

はーい

ん♡

お♡

はーい

お♡

はーい

はーい

はーい

はーい

ぐちゃっ

はーい

ぐちゃっ

ぐちゃっ



求めるならば
いつまでも
犯してやる…♥



しかし家に帰れば
僕のことを気に入っている
魔人様がいる



職場では冴えず、
友人と会うこともない
当然恋人もない



相変わらず
判を押したような
生活は続いている

人類よ…知る由も
ないだろう…

最近穴の具合が
より良くなったな…!

君たちがのうのうと
生きていられるのは

僕がデイギユレ様に
掘られているからと
いうことを…!

やはり
飽きぬ…♥
貴様はっ!

デイギユレ様あ!

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

はっ♥

